



ナブッコを歌ったヌッチとアビガイルを歌ったグレギーナ。リセウ歌劇場で

一番ヴェルディを知り尽くしたサンティ」と、記者でさえ舞い上がっているような文章が踊った。初日後、狂ったようなチケットを求める問い合わせに、劇場関係者達は本当に悲鳴をあげていた。

アビガイルを歌うグレギーナは、鋼のような切れ味鋭い声ではなく、アジリタ部分ではソプラノ・レジーエーロのような軽い声になってしまうが、それを最大限に生かしたのが最初のアリア。ピアノッシモで始め、転がるようなアジリタの後、なんとピアノッシッシモで終わった。1幕フィナーレでも高音で終わり、ナブッコとの二重唱では高音Esに挑戦した。そして絶好調のヌッチが歌うド

ラマティックなナブッコは、演奏会形式のハンディを微塵も感じさせない。特に神の怒りをかけた後のナブッコのドラマ作りは天下一品だった。

イズマエレ役のマチャード、フェネーナ役のディドナートらも健闘していたが、暗譜ができていなかったのは、視覚的テンションに大きく悪影響を与えて残念だった。しかし、結果的には劇場が割れるような大成功だった。録音を売り出す計画は、今も挫折したままのようだが、リセウ劇場は全ての公演をハイライトで毎年DVDにするのを売りにしているため、機会があったら是非、一部でも聴いていただきたい。(中 東生)

**オペ**  
リセウ歌劇場で  
サンティが指揮した  
《ナブッコ》演奏会形式

とにかく凄い熱狂の嵐がリセウを襲ったようだ。最初は録音が予定されていたこのプロジェクトが、ラジオの生放送という選択を強いられ、それがかえって、不特定多数の聴衆にライヴの興奮を伝えることになった。一流新聞は『ブラヴォー、マエストロ』と題し、「この地球上で



リセウ歌劇場《ナブッコ》(演奏会形式)を指揮して喝采を浴びたネッロ・サンティ